

# 藤沢レオ

## Still Living

スティール・リビング

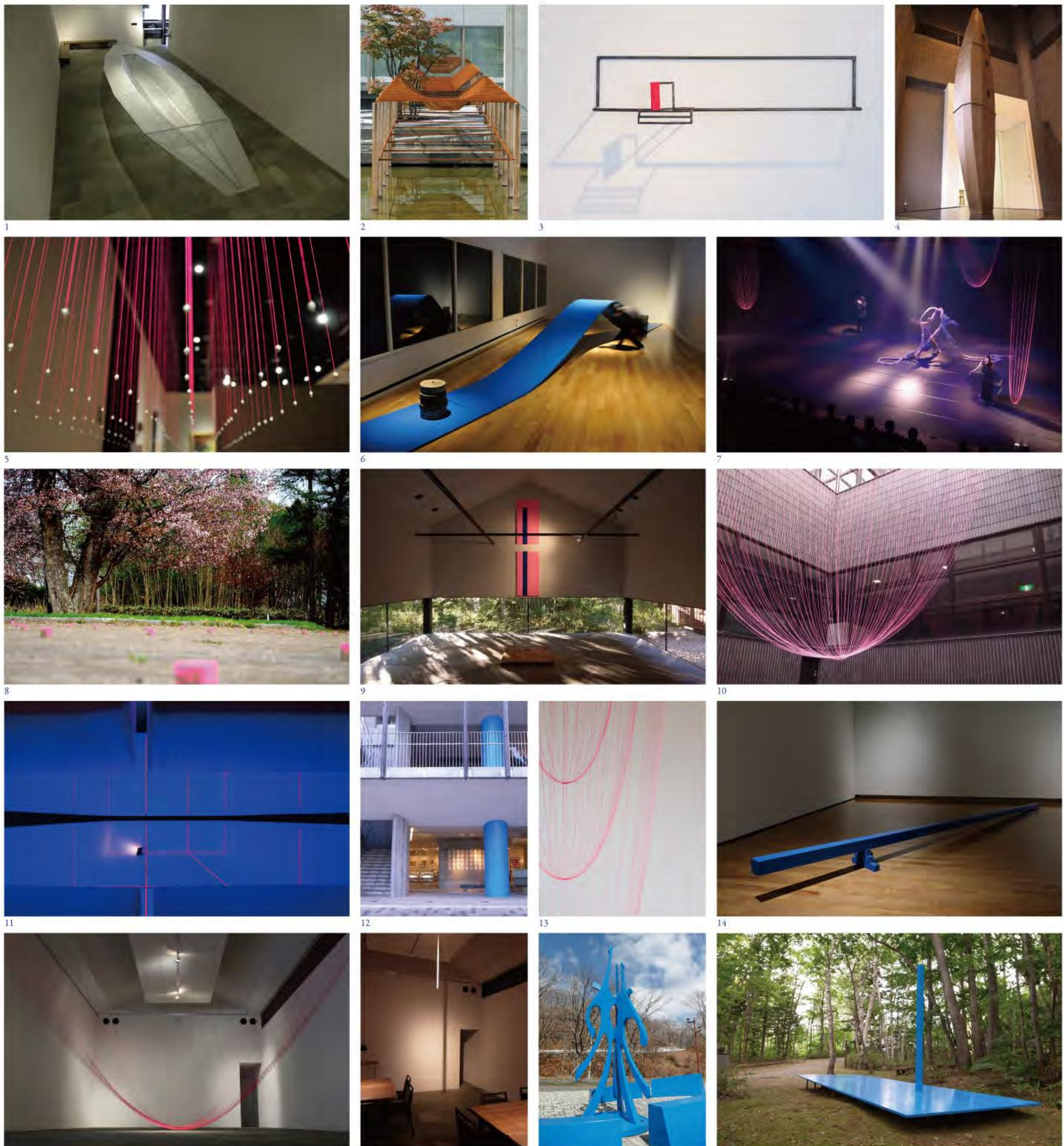
2018.10.6 sat - 12.2 sun 苫小牧市美術博物館

主催：苫小牧市美術博物館 共催：公益財団法人北海道文化財団 協力：NPO法人樽前artyプラス、株式会社ヨシダ、鴻野建設株式会社、株式会社山脇克彦建築構造設計  
後援：北海道、苫小牧信用金庫、北海道新聞苫小牧支社、株式会社苫小牧民報社、株式会社三星、北海道新幹線×nittan地域戦略会議

北海道苫小牧市樽前地区を拠点に活動を展開する藤沢レオ(1974-)は、日常に潜在する繊細な感情、そして自然の摂理などを視覚的に抽出する独自の表現によって評価を得ている金属工芸家・彫刻家です。藤沢の苫小牧市文化奨励賞受賞およびNPO法人樽前artyプラスとしての北海道文化奨励賞受賞を記念し開催する本展では、これまで藤沢が試みてきた、種子や揺りかご、棺などのフォルムを源泉としながら独自の死生観を仮託する「パサージュ」、無数の水糸を垂らすことにより重力や空気の流れなど不可視の原理を視覚化させる「不在の存在」、そして、人工物を象徴する青色のミニマムな彫刻の配置により空間の位置づけを定容させる「場の彫刻」という3つのシリーズの最新作を軸に展示します。

なかでも、「場の彫刻」のシリーズは、2014年以降、藤沢が継続して追求しているテーマであり、そこにおいて繰り返し登場するモチーフである“柱”は、

場の変容ないし発生を促す起点として位置づけられます。その“柱”を「人類の祖先がはじめて大地に棒切れを建てた瞬間の輝かしさ」の象徴として捉える藤沢は、“柱”を建てるという行為により世界を切り開いた精神が、やがて本能として浸透し普遍化していく過程について「原世界が拡張していく物語」として捉え、それを本展の通奏低音を成すコンセプトとして規定しています。展示室のみならずエントランスやラウンジ、中庭空間など、当館の建築空間を最大限に活用した一連のインスタレーションは、それぞれの空間と「物語」が呼応するものであり、光の演出や音響と融合しながら独自の作品世界を築きあげていきます。見る者がそこへ能動的かつ受動的に参加し、一体となって思考することで成立する本展は、めまぐるしく移り変わる世界において私たち人類がいかにして生きるべきなのかという根源的な問いを内包するものであり、果たして現代人や現代社会のありようについて再考を促す契機となることでしょう。



(参考作品※4を除く) 1《死スコトヲ知ル 生キルコトヲ知ル 生マレルコトヲ知ル 知ルコトヲ知ル》2007、茶廊法邑(札幌市) / 2《Le Passage》2008、札幌芸術の森美術館 / 3《静かな日 -door-》2011 / 4《Passage》2013、苫小牧市美術博物館 / 5《不在の存在 II》2014、苫小牧市美術博物館 / 6《場の彫刻 IV》2016、苫小牧市美術博物館 / 7《Water Flow》2015、コンカリーニョ(札幌市) / 8《場の彫刻 II》2015、苫小牧市立樽前小学校 / 9《場の彫刻 VI》2017、茶廊法邑(札幌市) / 10《不在の存在 I》2013、苫小牧市美術博物館 / 11《建築と美術 vol.1 スキマエスキス》2015、茶廊法邑(札幌市) / 12《場の彫刻 V》2016、いわき市 / 13《不在の存在 IV》2015、モエレ沼公園(札幌市) / 14《場の彫刻 III》2016、北海道立帯広美術館 / 15《不在の存在 III》2014、茶廊法邑(札幌市) / 16《柱の研究》2017、茶廊法邑(札幌市) / 17《光の庭》2017、とましんスタジアム(苫小牧市) / 18《場の彫刻 I》2014、札幌芸術の森

### 《関連イベント》

※詳細は公式ホームページをご覧ください。直接お問い合わせください。

苫小牧市美術博物館 サテライト現代アート展  
Port Collective: 集積するイメージ 9.21 fri - 23 sun 12:00-20:00

本展を紹介する先行展示をはじめ、当館で過去に開催した現代アート展のなかから、「苫小牧」をテーマに制作された作品、そして中庭や常設展示室など建築空間に合わせて展開したインスタレーション及び映像作品を展示・上映します。これにより、「港湾」と「空港」という2つの「Port/港」を有する都市に位置する当館に“集積”してきた作品を紹介します。

出品作家 | 大島慶太郎、大森記詩、佐竹真紀、中坪淳彦、坂東史樹、藤沢レオ、  
艾沢祥子×千歳科学技術大学ライトアート工房

会場 | 北海道教育大学アーツ&スポーツ文化複合施設 Hue Universal Gallery [HUG]  
(札幌市中央区北1条東2丁目4 札幌軟石蔵)

主催 | 苫小牧市美術博物館、北海道教育大学岩見沢校

《関連トーク》「イメージの引用と再構築～アートとサブカルチャーのはざままで」(仮)

日時 | 9月23日(日) 14:00-15:30

講師 | 伊藤隆介(映像作家・美術家/北海道教育大学岩見沢校教授)  
大森記詩(美術家/東京藝術大学教育研究助手) ほか

### アーティストトーク

10.6 sat 11:00-11:45

講師 | 藤沢レオ  
料金 | 無料 ※当日有効の観覧券が必要  
申込 | 不要 ※直接会場へお集まりください

### 藤沢レオを囲む夜の“社交会”

10.13 sat 18:30-19:30

藤沢レオの展示解説および、音響作家・中坪淳彦による即興演奏付の交流会。

料金 | 無料 ※当日有効の観覧券が必要  
申込 | 不要 ※直接会場へお集まりください

### レクチャー&ワークショップ

500万年後の私「鉄たたけます。」 11.3 sat 午前、午後各1回

初めて道具を手にした人類の祖先に思いを馳せながら、金づちをもって、鉄をたたいて、ねじって、オリジナルキーホルダーを作ります。

講師 | 藤沢レオ  
料金 | 500円(材料費+保険料)  
対象 | 一般(小学3年生以上)  
定員 | 午前、午後各10名 ※時間は決まり次第ホームページ等でお知らせします  
申込 | 電話 [0144-35-2550] ※受付期間:10/10~11/2

金属工芸家・彫刻家  
藤沢レオ  
Leo Fujisawa

1974年虻田町(現洞爺湖町)生まれ、苫小牧市在住。鉄や木、繊維などを素材に、工芸、彫刻、インスタレーション、舞台美術等ジャンルを横断しつつも、一貫して自身の死生観や価値観をテーマにした彫刻作品をはじめ、日常に隠れた重要な要素を視覚化する作品を制作。近年は生存や場、個人に関する思索を作品化している。アートを媒体として社会との積極的な関わりを続ける「NPO法人樽前artyプラス」の理事もつとめ、樽前地区における美術展やワークショップもおこなっている。工房LEO主宰。

開館時間 / 9:30-17:00 (入館は16:30まで) ※10.13(土)は20:00まで  
休館日 / 月曜日 ※10.8(月・祝)は開館、10.9(火)は休館  
観覧料 / 一般300(240)円、高大生200(140)円、中学生以下無料 ※11.3(土)は無料  
※( )内は10名以上の団体料金です。 ※免除規定がありますのでお問い合わせください。  
※年間観覧券でもご覧いただけます。 ※博物館常設展もご覧いただけます。



《公共交通》JR 苫小牧駅から、[1][2] いずれかに乗車  
[1] タクシーに乗車(乗車時間約10分)  
[2] 苫小牧駅南口バス乗り場から、いずれかに乗り「出光カルチャーパーク」下車  
のりば①から「24番」「30番(新千歳空港行)」「札幌駅前」「郊外線」のりば②から「01番」「21番」「22番」  
のりば③から「13番」「14番」(所要時間5分、料金210円) ※下車後徒歩約5分  
《自家用車》国道276号(支笏湖通)と国道36号の交差点(「苫小牧信用金庫中野支店」かど)を港方面へ曲がり、  
交差点の次の信号を右折。出光カルチャーパーク内駐車場に駐車(無料、70台まで駐車可)

苫小牧市美術博物館 [愛称:あみゅー]  
〒053-0011 北海道苫小牧市末広町3-9-7  
TEL: 0144-35-2550 FAX: 0144-34-0408  
http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutsukan

